

令和5年3月17日

枚方市教育委員会教育長

枚方市立五常小学校
校長 榊 正文

令和4年度学校評価報告書

1. 学校教育目標

《めざす子ども像》 よく学び 思いやりある たくましい子

【スローガン】 毎日楽しい学校

【めざす学校像】 児童が感動し、児童の期待に応える学校

【学校の使命】 児童が安心して楽しく通える安全な学校づくり

児童の確かな学力の育成、学力の向上

【本年度重点目標】

自ら学び、自他を尊重し、仲間と高めあえる子の育成

2. 学校経営方針

【基本方針】

本校教育の推進にあたっては、生涯を通じて自らの成長を図り、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成をめざすことを基本方針とする。そのために、基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲をもち、主体的に考え、判断し、行動する力を育てる教育を推進する。また、人を思いやる心や人の痛みを自分のこととして受けとめることのできる豊かな人権感覚を育て、個性を生かす教育の充実に努めるとともに、将来、国際社会に貢献できる人物の素地育成にあたる。

【重点目標】

本校では、素直で真面目に、一生懸命に日々の学習活動に取り組み、自らの力を存分に伸ばしている児童が多い。一方、他者を尊重することなく誹謗中傷を行ったり、遊び半分で他者をからかったりする事案が少なからず発生している。また、未知の場面、困難な場面に出会ったときに、自ら考え行動することを避け、消極的になったり、殻に閉じこもることも多々見られる。本校の最大の課題は、児童の「心の強さを育てること」と言える。

そこで、学校として、まず皆が認め合える学級経営をめざす。さらに、日々の学習活動において、教科学力(≒認知能力)を含む児童の総合的な生きる力(≒非認知能力)を高めていく。また、学校での学習と家庭での学習を通して、主体的・自律的に学ぶ力を習得させる。児童が自信をもって生き、自己と他者を尊重することの大切さを学び、仲間とともに大きく成長していくことを支援する。

本校は、以上のような本校児童の現状、保護者・地域のニーズ、そして枚方市教育大綱の理念を十分に踏まえた学校経営を行う。

「自ら学び」……主体的・自律的に学ぶ力をつける

「自他を尊重し」……自分の考えをきちんと他者に伝えるときともに、他者の考えを尊重する力をつける

「仲間と高めあえる」 仲間とともに、教科学力(≒認知能力)を含む児童の総合的な生きる力(≒非認知能力)をつける

3. 本年度の取組内容及び自己評価

基本 方策	項 目	・本年度の重点目標	○具体的な取組内容 (◆活動指標・成果指標を含める)	□取組内容の自己評価
確かな学力と自立の力を育む教育の充実	<p>校内研究</p> <p>基礎基本の徹底</p> <p>I C T</p>	<p>校内研の考え方をすべての教科で活用し、ゴールとつけない力を明確にした単元計画・授業に取り組む。 Hirakata 授業スタンダードの徹底</p> <p>国語・算数の基礎・基本習得 英語4技能 オビタイム(新しい朝学習)の組織的な実施 自律的な学習、個別最適化された学習をめざす</p> <p>タブレットの有効活用</p>	<p>○低中高ブロックで研究授業 ◆成果指標 教員アンケート 「国語の研究を他教科へ展開した」 92%</p> <p>◆成果指標 児童アンケート 「めあてをしめている」95% 「ふりかえりを行っている」95% 「話し合いで自分の考えを深めた」 93% 「自分の考えをよく発表した」 70%</p> <p>○オビタイム=漢字前倒し・百ます計算・音読・英語 ◆6月めどにオビタイムの今年度の取り組み内容とスケジュールを策定。学期に1度程度の定期モニタリングを実施し、施策の実施状況を個々の教員と組織で把握、自己改善サイクルを確立する。 ◆成果指標 1月当該学年配当漢字テスト 平均90% ◆成果指標 英検5級相当(中学初級)のリスニングテスト 合格ラインである正答率49%以上の(5,6年)児童60%</p> <p>○日々の授業やロイノートなどを活用した宿題 ◆成果指標 学校生活アンケート 「授業でタブレットをよく使う」 95% 「宿題でタブレットをよく使う」 76%</p>	<p>「他教科への展開」 100%(達成)</p> <p>「めあてをしめている」96%(達成) 「ふりかえりを行っている」92%(未達) 「自分の考えを深めた」 88%(未達) 「自分の考えをよく発表した」 85% (達成)</p> <p>① 漢字テストの平均正答率 第1回(10月)66.2% 第2回(1月)83.7% 第3回(3月)の達成トレンドに乗っていると判断 ② Units of sound 試行 児童アンケートの結果から分析 普段からUnits of soundに取り組んでいる 72% トレーニングの成果を感じている 77% もっと海外の人と英語でやり取りしたい 90% 「聞く・伝える・書く力」を発揮 80% →英語「耳」を作れたことで意欲的に取り組むようになり、学習指導要領の「ねらい」を達成でき、保護者の支持を獲得できている。 「授業でタブレットをよく使う」 91% (未達) 「宿題でタブレットをよく使う」 計測無</p>
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	<p>学級経営</p> <p>体力</p>	<p>学級経営見える化し、教員が自己点検するシステムを確立する</p> <p>基礎体力、中でも敏捷性・筋持久力の向上</p>	<p>○Q-U(2回)と学校生活アンケートを活用する。 ◆成果指標 児童アンケート 「授業に集中できる」90%</p> <p>○全学年で毎回の授業に基礎トレーニング(特に敏捷性を高めるもの)を取り入れる。 ◆学期に1度程度の定期モニタリングを実施し、施策の実施状況を個々の教員と組織で把握し、自己改善サイクルを確立する。 ◆成果指標 反復横跳びの計測 4~6年で 5月→学年末比スコア上昇児童を80%以上 6年 5年の平均回数以上をめざす 5年 男子38.7 女子36.7以上をめざす 4年 反復横跳びの方法を知り、5年にかけて自分の回数を伸ばす</p>	<p>「授業に集中できる」 80% (未達)</p> <p>4~6年で 5月→学年末比スコア上昇児童を %以上 (3月計測予定) 6年 39回(達成) 5年 男子40.1 女子44.8(達成) 4年 反復横跳びの方法を知り、5年にかけて自分の回数を伸ばす (3月計測予定)</p>

指導力の向上	教職員の資質と 教職員研修	人権・QU・道徳・オビタイム 服務研修 U3研修	○◆左記研修を行う。 ○◆教職経験3年以下の者を主な対象者として、身近な教育問題について年3回程度研修会を開催する。	実施した。
学びのセーフティネットの構築	生徒指導	組織で動く仕組みの確立 生徒指導事案の学年(主任) 中心の取り組みを徹底	○学年主任、生指部長及び管理職へ即時報告する仕組みの確立 生指・虐待事案全教職員へ報告・共有 ◆いじめアンケート年6回実施。実施後、担任、主任及び生指部長が状況把握 ◆成果指標 不登校の新規発生数 昨年(2名)から減少 ◆成果指標 児童アンケート 「学校が楽しい」 92%	不登校の新規発生数 入学当初から1年2名,それ以外で新規1名の計3名 「学校が楽しい」 90.7%(未達)

※必要に応じて欄を増やしてください。

※基本方策については、枚方市教育振興基本計画(令和2年9月計画見直し)を参照のこと。

※項目については、文部科学省学校評価ガイドライン(改訂)の内容を参照のこと。

4. 学校教育自己診断の実施状況

学校教育自己診断の結果と分析
<p>① 実施時期[令和 5年 12月]</p> <p>② 対象[保護者]</p> <p>③ 結果から特記すべき事項と分析</p> <p>児童項目のうち良くなった点は、以前から課題として挙げていた項目8「意見や考えの発表」です。評価は C~D ですが、前年よりポイントが伸びています。枚方市は児童が主役の協働的な学びを推進しています。本校で過去4年間取り組んできた「言語活動を通じた授業デザインの校内研究」で身につけてきたものが実践されていると見えています。</p> <p>高・低学年項目について、項目2「落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている」のポイントの低下は、いくつかの学年で学級内の規律等に課題があることが要因と考えられ、それが項目1「学校に行くのを楽しみにしている」にも影響していると見えています。これらはすでに学校全体の課題と捉え、組織的に対処してるところです。</p> <p>項目 2~4(学校運営の透明化) についての評価を見ると、学校は保護者から大きな期待をいただいていると見えています。その期待に応えるよう教育計画に定めている経営方針に沿って具体的な施策を実行し、成果を出していきたいと考えています。</p> <p>項目1「清掃が行き届いている」のポイントの低下は「トイレの利用、清掃」の課題が影響していると見えています。この点については、より良好な環境に近づけるよう、引き続き、児童の指導と清掃に取り組んでいきたいと考えられています。</p> <p>高学年の項目5「先生は相談に適切に応じてくれる」のポイントの低下は、重く受け止めています。担任他全教職員が、より保護者のお気持ちに寄り添い、ご意向の趣旨を汲み取ることができるよう心がけていきたいと考えています。</p> <p>項目1「授業でわからないところを質問しやすい」については、教員が児童の多様な考えを尊重し、質問をしやすい学級づくりに尽力していることが奏功していると見えています。学力の向上にも直接関係しますのでさらに努力していきたいと考えています。</p> <p>低学年の項目2「自分には自慢できるものがある」の低下は気になるところです。日々の教育活動において、「できなかった」ことを「できる」ようにする、「できていること」をきちんと認める等、児童が「昨日の自分よりも良くなった」と思えるようにすることが大切と考えており、これに丁寧に取り組んでいきたいと考えています。</p>

5. 学校評議員制度及び学校関係者評価委員会、学校運営協議会等の運用状況

学校評議員及び保護者、学校運営協議会委員からの意見内容等

<日時 令和4年7月7日> 協議会形式 個別

○氏名 窪田哲也・磯部智子・宮川 満・林春花
学校 榊正文 村上享

○意見を求めた事項

- 1 令和4年度の五常小の体制・方針について
- 2 学力向上策について
- 3 コロナ対策他学校の現状、今後の取り組みについて

○意見の概要

・学校経営方針の中で、「協働的な学び」と「個別最適化の学び」は相反すると思うが、どう進めているのか。
・新しく改装する南校舎の男子トイレは、大小の便器を設置すると聞いたが、男子が大トイレを使うことで周りから冷やかされるのが起きるのではないかと。

<日時 令和4年12月7日> 協議会形式 個別

○氏名 窪田哲也・磯部智子・宮川 満・林春花
学校 榊正文 村上享

○意見を求めた事項

- 1 全国学テの結果について
- 2 学校の現状について

○意見の概要

・英語の時は、先生はマスクをはずし、透明なガードをつけたほうが口の動きがわかり発音の学習には有利である。発音にこだわって教育すると、中学校に上がったときに恥ずかしいという意識が薄くなり、カタカナ英語がなくなる。
・せっかく小学校で高めているのだから、Units は、中学校でも取り入れてもらうことはできないか。
・学校全体で個人懇談前に事前アンケートを取るのが良い。今期4年生でやっていたが、短い時間で聞きたいことが焦点化され、より望ましい懇談になった。全校で行うべき。
・自尊感情が高まっているのは良い。
・リュックサックの使用について通年利用できるようになったことは良いが、同調圧力がありランドセルに替えたことがあると聞いた。

<日時 令和5年3月9日> 協議会形式 個別

○氏名 窪田哲也・磯部智子・宮川 満・林春花
学校 榊正文 村上享

○意見を求めた事項

- 1 学校教育自己診断について
- 2 学校の現状について
- 3 学校評価報告書について

4 令和5年度経営方針について ほか

○意見の概要

(学校教育自己診断について)

- ・学習規律の課題について
- ・保護者の相談への適切な対処の課題について
(英語学習 Units of Sound について)
- ・自学習慣の身につかない児童への支援について
- ・1～3年の導入検討について
(令和4年度学校評価報告書について)
- ・体力面 敏捷性の向上について
(来年度経営方針について)
- ・今後の支援教育おけるインクルーシブ教育について
- ・教職員の意見を反映する新しい仕組みについて
(その他)
- ・保護者自身の学校への協力について

6. 次年度に向けて

項目	・内容	○改善方策
2	・項目2「落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている」のポイントの低下	○いくつかの学年で学級内の規律等に課題があることが要因と考えられ、それが項目1「学校に行くのを楽しみにしている」にも影響していると見えています。これらはすでに学校全体の課題と捉え、組織的に対処してるところです。
1	・項目1「清掃が行き届いている」のポイントの低下	○「トイレの利用、清掃」の課題が影響していると考えています。この点については、より良好な環境に近づけるよう、引き続き、児童の指導と清掃に取り組んでまいります。
5	・高学年の項目5「先生は相談に適切に応じてくれる」のポイントの低下	○重く受け止めています。担任他全教職員が、より保護者のお気持ちに寄り添い、ご意向の趣旨を汲み取ることができるよう心がけてまいります。
2	・低学年の項目2「自分には自慢できるものがある」の低下	○日々の教育活動において、「できなかった」ことを「できる」ようにする、「できていること」をきちんと認める等、児童が「昨日の自分よりも良くなった」と思えるようにすることが大切と考えており、これに丁寧に取り組んでまいります。

■添付資料■

- ①学校評価結果の公表資料(保護者や地域住民等に公表した学校だより等)
- ②職員会議、校内研修会等、職員を対象に作成した資料
- ③その他、必要と思われる資料